

新「世界の蔵王」プロジェクト推進事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	観光文化スポーツ部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ5 世界に誇る山形の魅力を発信し国内外の旺盛な活力を引き込む「観光立県山形」の確立						
	施策	施策3 観光産業の競争力強化						
	目的	観光産業は産業間の関連が強いうえ、裾野が広く経済波及効果が高いことから、県民の総参加と全産業の参加のもと、総合産業として競争力を強化する。						
	目標指標(R2)	観光消費額	2,500億円					
	策定時の実績	2,015億円(H27年)	現状	2,168億円(H29年)	主要事業	観光人材の育成		
事業名	新「世界の蔵王」プロジェクト推進事業費			担当課・担当	観光立県推進課 観光振興担当			
事業開始年度	平成30年度			事業終了(予定)年度	未設定			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	開湯1900年の温泉や世界に誇る蔵王温泉スキー場、蔵王連峰の登山・トレッキング、斎藤茂吉の文化、美食などの蔵王の魅力豊かな地域資源を活用することにより、「四季のリゾート「蔵王」」が世界中に認識され、年間を通し、国内外から多くの観光客で満ち溢れる、世界に通用するリゾート地として確立する。 さらに、蔵王地域を拠点に県内全域への周遊を促進し、県全体への交流拡大に結び付ける。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	地域の事業者や観光協会、市、県等による協議会(DMO)を立ち上げ、蔵王と競合するリゾートとの比較分析等を行い、「四季のリゾート「蔵王」」のブランド化に向け、蔵王の今後のあるべき姿や方向性などを協議・決定し、それに基づき、県、市、地域が一体となって、雪や伝統工芸、アクティビティ等などの滞在コンテンツの造成や、温泉街の魅力向上等に取り組み、蔵王地域全体の観光地経営を推進する。 併せて、蔵王における喫緊の課題である滞在コンテンツの充実については、欧米豪の長期滞在者向けに、「美食・美酒」と体験型観光などをセットにした蔵王発着のタクシープランの商品化に取り組む。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：協議会は県が主導し運営。その他事業については、専門の見地が必要であるため事業者へ委託。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	新「世界の蔵王」プロジェクト体制の構築		2,657					
	二次交通の充実		1,000					
	計	0	3,657	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金		2,925					
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源		732					
	計	0	3,657	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	蔵王発着のタクシープランの活用のべ件数	活動実績	件数	—	6			
		当初見込み	件数	—	40	120	200	280
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	蔵王温泉の観光者数(蔵王発着のタクシープランなどの滞在型観光プランの充実により観光者数の増加に寄与する)	成果実績	千人	1,007	調査中			
		目標値	千人	1,014	1,034	1,054	1,074	1,094
		達成度	%	99%				
関連事業	・雪を活用した観光誘客支援事業費 ・東北観光復興対策調査事業費(インバウンド・国際交流推進課) ・東北観光復興対策プロモーション強化事業(インバウンド・国際交流推進課)							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

蔵王温泉スキー場は、雪質抜群のパウダースノーが楽しめる変化に富んだ14のゲレンデ・12のコースで単独スキー場の面積では日本最大級、そして、1900年前に開湯した日本屈指の古湯「蔵王温泉」がある東北最大級のスキーリゾートである。また、蔵王地域は、春の新緑、夏は避暑地、秋には紅葉があり、四季を通して温泉・自然・アクティビティ等を体感できる本県最大の観光地である。さらに、最近では、斎藤茂吉の「蔵王文学のみち」や、山形の食等を提供する屋台、県産酒に関するミュージアムなど、地域において食や歴史・文化などの新たな魅力を生み出している。
 しかし、蔵王温泉の観光客は平成2年をピーク(約250万人)に平成28年度は約99万人まで減少している。
 本県最大規模の観光地である蔵王温泉の活性化は、本県全体の観光誘客にもつながるため、新「世界の蔵王」プロジェクト推進事業を展開し、県、山形市、上山市、地域、事業者等が一体となって、蔵王の魅力の更なる磨き上げや発掘、受入態勢等を整備し、「四季のリゾート蔵王」の魅力を世界中に認識させ、国内はもちろん、旺盛なインバウンド需要も取り込む。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	・県内屈指の観光地である蔵王のブランド化は、蔵王を起点に県内各地の観光地への周遊が期待できるなど、県内全域への波及性が高く、地域活性化に寄与する事業である。 ・また、蔵王の滞在コンテンツの充実を図るため体験型観光などをセットにした蔵王発着のタクシープランの商品販売を行ったところ、実績の8割は外国人観光客が利用しており、需要が高いことが確認できた。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	B	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	・業務委託業者については、公募型プロポーザル方式により企画提案を募り、有識者を交えた審査会を経て業者を選定した。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
役割分担の妥当性	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・四季のリゾートの確立に向けたワークショップ等は、官民共同で実施している。また、蔵王が位置する関係市や、将来的には宮城蔵王側と広域的な連携を円滑に進めるためには、当事業を県で実施することが妥当である。
今改善の点課題	・四季のリゾートのブランド化に向け、行政、地域、事業者等が一体となって、蔵王の魅力のさらなる磨き上げや発掘、受入態勢等を整備し、蔵王地域全体の観光地経営を推進する必要がある。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない